

188 東京法学院大学記事(第二回英語茶話会・講談会・高等

法学科卒業者)

〔法学新報〕第十三卷十三(一五四)号

明治三十六年十二月十日

東京法学院大学記事

○第二回英語茶話会 去月二十二日午後二時より東京法学院大学第二回英語茶話会を第四講堂に開き廣井講師開会の辞を述べ当日の講演者英人ルーズ氏を紹介したり氏は快弁を揮ひて英語研究の方法及び法律学を学ぶ者の英語の必要其英学者に対する種種の注意を懇切に演述せられ次て学生粟野長幹氏は「書籍館に就て」小俣房吉氏は「太閤(トヨトミ)の度量」を演説し阪東信七氏は「ジュリアス、シーザー」中のアントニーの演説」を暗誦し杉本善次郎氏は「筍西人を悩ます」小澤善雄氏は「五大法律学校の討論会に就て」の演説を為し伊澤巖吉、田代周三郎両氏の滑稽對話あり廣井講師は外山信義氏に勧めて米国の国歌たる独立の歌を独吟せしめルーズ氏の苦り切つたる顔を見て始めて氏の英人なりしに氣付き倉皇として彌縫せられ相見て微笑せられたるは亦一場の滑稽なりし此他暗誦、演説の希望者続続ありしも時間の許さざるか為め已むなく閉会を告げ茶菓の饗応ありて随意退散したるは午後六時なりし因に同会は創始以來茲に二回僅かに一月を隔つるのみと雖も講師の指導其宜しきを得たと学生

の熱心なるにより確に一段の進境を觀たるは理事者の満足亦
想ふべきなり

○講談会 去月十三日午後一時より勝本仁井田の二教授公用の
為め出京せられたるを機とし東京法学院大学講談会を大講堂に
開き第一席「万国仲裁裁判に就て」古屋（久綱）博士第二席
「刑法改正案に就て」勝本（勘三郎）学士「国家に就て」仁井
田（益太郎）博士の講演あり定刻前聴衆講堂の内外に嗔咽して
其開会を宣言せらるる時は既に満場立錫の地なく頗る盛会なり
し当日諸氏の講演は順次論説欄に掲載すへし

○高等法学科卒業者 旧東京法学院高等法学科に在りて年来研
究せられたる石山彌平外三氏は先般卒業論文を提出し指導講師
の批判を受け及第したるを以て本月初旬菊池学長より夫夫卒業
証書を授与せらる其研究科目及び氏名は左の如し

民法 石山彌平 刑法 卜部喜太郎 刑法 川嶋龜夫
刑法 川嶋仟司

因に同規程は新学則第九十三条に依り来三十七年三月限り廃止
せらるることとなるを以て目下統統論文提出の申出ありて現に
審査中に係るものは高窪喜八郎喜多孝治外十数氏なり